

現代教学研究会 講演会

日本のポップカルチャー と 若者の宗教性

講師：マルティン・レップ先生
NCC 宗教研究所 副所長
(NCC = 日本キリスト教協議会)

日時：2003年6月12日(木)
15:00 ~ 16:30

場所：大宮学舎 東翼 304 教室

ポップカルチャー・大衆文化は、学問的には今までさほど注目されてこなかった。しかしここ数年、この態度は変化しつつある。現代のポップカルチャーの研究は、学問の世界でも大きな課題となってきたのである。

ヨーロッパのキリスト教神学者である私にとって、現在の日本の若者の間でハルマゲドンの概念が良く知れ渡っていることは驚きであり、また大きな発見でもあった。ハルマゲドンの概念はユダヤ - キリスト教の伝統の中から生まれてきたものであるが、現在の西洋社会においては死語になりつつある。しかし多くの日本人にとっては、その概念が生き生きとした象徴として受け止められ、生活のなかで何かしらの影響を与えているのである。なぜこのような事が起こっているのか？

若者文化を研究することは、若者離れが深刻である既成の諸宗教にとっても宗教的に意義がある。若者のポップカルチャーに対する深い理解は、今日の日本や様々な地域で起こっている伝統宗教 - 若者間のコミュニケーションの断絶に、橋を架けていく手助けとなるであろう。
(論文より)

主催：現代教学研究会 後援：真宗研究会